

策定にあたって

この「神戸 2015 ビジョン」は、2025 年（平成 37 年）に向けた長期的な神戸づくりの方向性を示す「神戸づくりの指針」の最初の5年間の具体的な実行計画として策定いたしました。策定にあたっては、各分野で活躍されている市民や学識経験者などにご参加いただいた「神戸市総合基本計画審議会」が中心となり原案の作成を行ったほか、さまざまな協働と参画の手法により、市民の皆様の意見を反映しながら進めてまいりました。

阪神・淡路大震災による未曾有^{みぞう}の被害を受けた 1995 年に、本市では「神戸市復興計画」「第4次神戸市基本計画」を策定し、震災からの速やかな復興と、21 世紀という新たな時代にふさわしい都市づくりを進めてきました。さらに震災から 10 年が経過した 2005 年には、それまでの復興の歩みをふまえて、「神戸 2010 ビジョン」を策定し、「豊かさ創造都市」の実現をめざしてまいりました。「神戸 2010 ビジョン」については概ね目標を達成できましたが、少子・超高齢化の急速な進行や、激しい国際競争など、神戸をとりまく社会経済状況は一層厳しさを増しています。

こうした中、この「神戸 2015 ビジョン」では、「くらし・経済の向上」と「新たな価値・魅力の創出」という2つの大きな目標を掲げ、その実現のために必要な事業について、新たな取り組みや拡充する取り組みを中心に、「選択と集中」により「重点施策」として位置づけ、あわせて具体的な目標やスケジュールを設定しています。そして、時代の変化に柔軟に対応した機動的な運用を行いつつ、毎年度 PDCA サイクルによる検証・評価や、それに基づく改善・改革を進め、その実現を図ってまいります。

さらに本ビジョンでは、すべての重点施策にわたって、市民・大学等・事業者・行政の各主体の役割を明確に位置づけています。これからの神戸づくりでは、これらの各主体が目標を共有し、一層の協働と参画を進めることが不可欠です。「神戸づくりの指針」において掲げた、「ひと」を「たから」として新たな豊かさをともに創造する“協創”^{きょうぞう}の理念のもと、本ビジョンを必ずやり遂げ、明日の神戸をよりよいものにしていきましょう。

平成 23 年 2 月



神戸市長

矢田 立 郎